



## 2022年12月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2022年11月11日

上場会社名 株式会社ブイキューブ 上場取引所 東  
 コード番号 3681 URL http://jp.vcube.com/  
 代表者 (役職名) 代表取締役会長 (氏名) 間下 直晃  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 CFO (氏名) 山本 一輝 TEL 03 (5475) 7250  
 四半期報告書提出予定日 2022年11月11日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有  
 四半期決算説明会開催の有無：有（機関投資家・証券アナリスト・報道機関向け）

(百万円未満切捨て)

### 1. 2022年12月期第3四半期の連結業績（2022年1月1日～2022年9月30日）

#### (1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		調整後EBITDA		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年12月期第3四半期	9,093	6.9	1,474	△24.8	551	△50.3	506	△50.5	384	△60.7
2021年12月期第3四半期	8,509	60.1	1,958	58.6	1,111	99.8	1,024	86.1	977	53.8

(注) 包括利益 2022年12月期第3四半期 1,849百万円 (83.2%) 2021年12月期第3四半期 1,009百万円 (100.0%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年12月期第3四半期	15.82	15.58
2021年12月期第3四半期	40.37	39.23

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2022年12月期第3四半期	18,071	6,754	36.9	274.53
2021年12月期	15,259	5,100	33.1	207.92

(参考) 自己資本 2022年12月期第3四半期 6,672百万円 2021年12月期 5,046百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年12月期	—	0.00	—	8.00	8.00
2022年12月期	—	0.00	—		
2022年12月期（予想）				8.00	8.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

### 3. 2022年12月期の連結業績予想（2022年1月1日～2022年12月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		調整後EBITDA		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	12,300	7.0	2,100	△20.8	800	△40.8	700	△43.2	500	△62.2	20.60

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：有
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2022年12月期3Q	24,737,400株	2021年12月期	24,737,400株
② 期末自己株式数	2022年12月期3Q	466,472株	2021年12月期	466,443株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2022年12月期3Q	24,270,949株	2021年12月期3Q	24,219,842株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項については、添付資料P. 4「1.（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 継続企業の前提に関する重要事象等	5
3. 四半期連結財務諸表及び主な注記	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	8
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	9
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)	10
(会計方針の変更)	10
(セグメント情報等)	11
(企業結合等関係)	12
(重要な後発事象)	12

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

文中の将来に関する事項は、当第3四半期連結会計期間の末日現在において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が判断したものであります。

当第3四半期連結累計期間の業績は以下のとおりです。

(単位：千円)

	前第3四半期 連結累計期間	当第3四半期 連結累計期間	増減	増減率 (%)
売上高	8,509,025	9,093,315	584,290	6.9
営業利益	1,111,283	551,870	△559,413	△50.3
経常利益	1,024,613	506,891	△517,722	△50.5
親会社帰属四半期純利益	977,718	384,009	△593,709	△60.7

当第3四半期連結累計期間においては、バーチャル株主総会の運用本格化に伴う配信件数の増加や、企業・公共空間における防音型コミュニケーションブース「テレキューブ」の設置販売が伸長したこと、及び2021年6月から当社グループの連結子会社となったXyvid, Inc.（以下、Xyvid）が当期は期首から連結となったことにより、売上高は前年同期比で6.9%増の9,093,315千円となりました。

一方で、エンタープライズDX事業における自社製品比率の低下に伴う利益率低下や、イベントDX事業における製菓業界における小規模配信の縮小、サードプレイスDX事業における「テレキューブ」に関する広告宣伝費用の発生により、営業利益は前年同期比50.3%減の551,870千円となりました。

営業外損益及び特別損益においては、為替相場が円安基調にある中でのグループ間の資金決済により為替差損6,497千円（前年同期比43.4%減）を計上したほか、持分法による投資損失17,736千円（前年同期比37.8%減）を計上いたしました。

セグメント別の業績は、次のとおりです。

I. エンタープライズDX事業

(単位：千円)

	前第3四半期 連結累計期間	当第3四半期 連結累計期間	増減	増減率 (%)
売上高	3,502,536	3,253,040	△249,496	△7.1
セグメント利益	582,426	454,670	△127,756	△21.9

エンタープライズDX事業は、主に企業や官公庁等を対象に、社内外のコミュニケーションにおけるDX（デジタルトランスフォーメーション）を支援するサービスを提供しております。

具体的には、自社開発の汎用Web会議システム「V-CUBE ミーティング」や「Zoom」の販売のほか、ディスカッションテーブル「V-CUBE Board」などの災害対策ソリューションやウェアラブルデバイスなど、企業向けのリモートコミュニケーションプロダクトを提供しております。また、顧客企業において映像組み込み型サービスの開発を容易にする「V-CUBE Video SDK」の提供やサービス開発及び運用支援をすることで、顧客企業におけるソリューション開発を支援しております。

当第3四半期連結累計期間のセグメント売上高は、前年同期比7.1%減の3,253,040千円となりました。これは前第3四半期連結累計期間に見られた、緊急退避的にリモートワークを行った企業によるWeb会議システムの需要が一巡した他、連結子会社であるWizlearn Technologiesにおける、シンガポール政府の方針に基づく学校向けLMS市場の大幅な縮小によるものであります。また、注力事業ではなくなったことによる自社製品比率の低下に加え、円安による海外他社製品の原価の上昇に伴う限界利益率の減少によってセグメント利益率は16.6%から14.0%に減少し、セグメント利益は前年同期比21.9%減の454,670千円となりました。

II. イベントDX事業

(単位：千円)

	前第3四半期 連結累計期間	当第3四半期 連結累計期間	増減	増減率 (%)
売上高	3,486,457	3,750,515	264,058	7.6
セグメント利益	515,154	178,272	△336,882	△65.4

イベントDX事業は、様々な分野におけるイベント、セミナーのリモート化を支援する事業であります。

具体的には、Webセミナー配信サービス「V-CUBE セミナー」や「EventIn」などのセミナー配信プロダクトを提供するほか、イベント配信に係る運用設計、当日の配信サポートや後日のイベントデータ解析などの運用支援サービスを提供しております。

当第3四半期連結累計期間のセグメント売上高は、前年同期比7.6%増の3,750,515千円となりました。これは本年度より運用が本格化したバーチャル株主総会や人材業界における就職説明会などの非製薬業界での事業の成長の他、2021年6月から当社グループの連結子会社となったXyvidの連結対象期間が伸びたためであります。一方で、前期において効率的なサービス提供体制を構築していた製薬業界向け小規模配信事業の縮小に加えて製薬業界向けのウェブ講演会市場全体の縮小傾向、並びに米国におけるオミクロン株の流行による配信イベントの延期とその後の流行の鎮静化により発生した急速なリアル回帰によりXyvidの業績が低下し、それに伴いのれん償却額の負担が相対的に重くなったことから、セグメント利益は前年同期比65.4%減の178,272千円となりました。

### Ⅲ. サードプレイスDX事業

(単位：千円)

	前第3四半期 連結累計期間	当第3四半期 連結累計期間	増減	増減率 (%)
売上高	1,520,032	2,089,760	569,728	37.5
セグメント利益	506,996	440,747	△66,249	△13.1

サードプレイスDX事業は、自宅や職場とは異なるサードプレイス（第3の場所）の提供や運用支援を行うことで、昨今日本に浸透しつつあるテレワークを1つのワークスタイルとして定着させることを目的とする事業であります。

具体的には、企業及び公共空間への防音型コミュニケーションブース「テレキューブ」の提供、公共空間におけるワークブースの管理運営システムの開発、「テレキューブ」において提供する関連サービスの開発を行っております。

当第3四半期連結累計期間では、セグメント売上高は前年同期比37.5%増の2,089,760千円となりました。これは、テレワークの浸透に伴って企業及び公共空間でのセキュアなワークブースの需要が増加したことにより販売件数が増加したことによるものであります。

また、セグメント利益は前年同期比13.1%減の440,747千円となりました。これは、第1四半期連結累計期間においてテレビ及びWeb媒体を利用した広告宣伝活動を実施したためであります。

#### (2) 財政状態に関する説明

(単位：千円)

	前連結会計年度	当第3四半期 連結累計期間	増減
資産	15,259,020	18,071,952	2,812,932
負債	10,158,169	11,317,644	1,159,475
純資産	5,100,851	6,754,308	1,653,457

##### ①資産

当第3四半期連結会計期間末において、資産残高は前連結会計年度末比2,812,932千円増の18,071,952千円となりました。これは、6月のバーチャル株主総会及び大型配信案件の実施により売上高が伸長したことで売掛金残高が増加したこと、前期末に一時的に減少させていた借入金等のポジションを再度増額したことにより現金及び預金の残高が増加したこと、及び為替レートが円安方向に動いたことで海外子会社の円換算後ののれん残高が増加したことによるものであります。

##### ②負債

負債残高は、前連結会計年度末比1,159,475千円増の11,317,644千円となりました。これは前期末に一時的に減少させていた借入金等のポジションを再度増額したことにより借入金残高が増加したためであります。

##### ③純資産

昨年末と比べて為替レートが大幅な円安となったために為替換算調整勘定が増加したこと、及び親会社株主に帰属する四半期純利益384,009千円の計上により利益剰余金残高が増加したことで、純資産残高は前連結会計年度末比1,653,457千円増の6,754,308千円となりました。この純資産増加の影響により、自己資本比率は36.9%（前連結会計年度末は33.1%）に増加いたしました。

#### (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2022年12月期の通期連結業績予想につきましては、2022年11月1日公表の連結業績予想から変更しておりません。

2. 継続企業の前提に関する重要事象等

継続企業の前提に関する重要事象等

該当事項はありません。

### 3. 四半期連結財務諸表及び主な注記

#### (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,823,797	2,729,945
受取手形及び売掛金	1,728,357	1,450,792
前渡金	49,156	58,634
その他	621,147	669,679
貸倒引当金	△200	△20,896
流動資産合計	4,222,259	4,888,155
固定資産		
有形固定資産	1,694,812	2,040,966
無形固定資産		
ソフトウェア	1,704,740	2,056,167
ソフトウェア仮勘定	661,894	1,111,423
のれん	3,759,122	4,384,816
その他	62	62
無形固定資産合計	6,125,820	7,552,470
投資その他の資産		
投資有価証券	273,208	389,827
関係会社株式	307,569	344,526
敷金及び保証金	305,460	349,941
長期貸付金	48,755	36,202
繰延税金資産	1,651,506	1,844,031
長期前払費用	82,102	60,802
その他	548,418	566,027
貸倒引当金	△894	△999
投資その他の資産合計	3,216,127	3,590,360
固定資産合計	11,036,760	13,183,797
資産合計	15,259,020	18,071,952

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	546,312	327,352
短期借入金	1,642,912	3,146,207
1年内返済予定の長期借入金	512,980	1,742,600
契約負債	882,928	1,023,768
賞与引当金	104,119	77,809
未払法人税等	51,897	45,704
その他	837,834	921,946
流動負債合計	4,578,983	7,285,388
固定負債		
長期借入金	4,828,100	3,356,400
リース債務	496,941	369,997
資産除去債務	245,219	296,037
その他	8,925	9,820
固定負債合計	5,579,185	4,032,255
負債合計	10,158,169	11,317,644
純資産の部		
株主資本		
資本金	92,190	92,190
資本剰余金	2,831,834	2,831,834
利益剰余金	2,609,803	2,799,645
自己株式	△794,757	△794,791
株主資本合計	4,739,070	4,928,878
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	7,380	52,826
為替換算調整勘定	299,904	1,690,395
その他の包括利益累計額合計	307,284	1,743,222
新株予約権	2,160	2,160
非支配株主持分	52,336	80,047
純資産合計	5,100,851	6,754,308
負債純資産合計	15,259,020	18,071,952

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
(四半期連結損益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年9月30日)
売上高	8,509,025	9,093,315
売上原価	4,559,091	5,012,469
売上総利益	3,949,934	4,080,846
販売費及び一般管理費	2,838,650	3,528,975
営業利益	1,111,283	551,870
営業外収益		
受取利息	1,433	2,463
受取保険金	8,550	3,722
助成金収入	7,202	5,745
投資有価証券評価益	8,652	7,004
その他	13,986	2,421
営業外収益合計	39,824	21,357
営業外費用		
支払利息	25,380	33,918
為替差損	11,469	6,497
支払手数料	16,789	229
地代家賃	31,723	3,979
持分法による投資損失	28,492	17,736
その他	12,639	3,976
営業外費用合計	126,495	66,337
経常利益	1,024,613	506,891
特別損失		
固定資産除却損	3,350	759
リース解約損	-	9,371
訴訟和解金	-	7,685
事務所移転費用	-	6,111
その他	1,013	630
特別損失合計	4,363	24,559
税金等調整前四半期純利益	1,020,249	482,331
法人税、住民税及び事業税	28,807	52,608
法人税等調整額	4,270	16,351
法人税等合計	33,078	68,960
四半期純利益	987,171	413,370
非支配株主に帰属する四半期純利益	9,452	29,361
親会社株主に帰属する四半期純利益	977,718	384,009

(四半期連結包括利益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年9月30日)
四半期純利益	987,171	413,370
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	7,380	45,446
為替換算調整勘定	15,129	1,390,491
その他の包括利益合計	22,510	1,435,937
四半期包括利益	1,009,681	1,849,308
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,000,196	1,821,597
非支配株主に係る四半期包括利益	9,485	27,711

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下、「収益認識会計基準」という。)及び「収益認識に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第30号 2020年3月31日)を第1四半期連結会計期間の期首より適用したことにより、第1四半期連結会計期間の期首時点における流動負債の「前受金」882,928千円を流動負債の「契約負債」に組み替えております。また、前連結会計年度における流動負債の「前受金」882,928千円を流動負債の「契約負債」882,928千円に組み替えております。

なお、「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2018年3月30日)及び「収益認識に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第30号 2018年3月30日)を第21期の期首より早期適用しているため、当該会計基準等の適用が四半期連結財務諸表に与える金額的影響はありません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することといたしました。なお、当該会計基準等の適用が四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	エンタープライズDX事業	イベントDX事業	サードプレイスDX事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	3,502,536	3,486,457	1,520,032	8,509,025	—	8,509,025
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	3,502,536	3,486,457	1,520,032	8,509,025	—	8,509,025
セグメント利益	582,426	515,154	506,996	1,604,577	△493,293	1,111,283

(注) 1. セグメント利益の調整額△493,293千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない管理部門の一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間（自 2022年1月1日 至 2022年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	エンタープライズDX事業	イベントDX事業	サードプレイスDX事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	3,253,040	3,750,515	2,089,760	9,093,315	-	9,093,315
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	-	-	-	-	-
計	3,253,040	3,750,515	2,089,760	9,093,315	-	9,093,315
セグメント利益	454,670	178,272	440,747	1,073,689	△521,818	551,870

(注) 1. セグメント利益の調整額△521,818千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない管理部門の一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

(企業結合等関係)

2021年6月3日に取得したXyvid, Inc. との企業結合について第1四半期連結会計期間まで暫定的な会計処理を行っていましたが、第2四半期連結会計期間において確定しております。この暫定的な会計処理の確定に伴うのれん金額に修正は生じておりません。なお、のれんの償却期間は15年であります。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。